

FD 学外セミナー参加報告書

氏名： 田中雅博

所属/職名： 知能情報学部／教授・学部長

参加セミナー名： 龍谷大学 FD フォーラム「ラーニングコモンズを学びの空間として育てていくために」

セミナー参加日時/場所： 2015年3月13日（金）13：30～17：00

龍谷大学 深草学舎和顔館（わげんかん）202 教室

龍谷大学に新しくラーニングコモンズができ、それのお披露目的なイベントであった。基調講演として、ラーニングコモンズでは先輩格の関西学院大学から（関学では、アカデミックコモンズと呼んでいる）、学長補佐・巳波理工学部教授による三田キャンパスでの状況の報告が1時間ほどあった。関学では軌道に乗っており、本学でも学ぶことが非常にたくさんあると感じた。理系の場合、何か物を作るようなプロジェクトがラーニングコモンズに向いているようである。授業でいかにラーニングコモンズを使うかという点については、関学もまだこれからということだったが、やはり、演習的な側面をもつフェーズでの利用が中心であろう。

次に、龍谷大学のラーニングコモンズの報告が1時間半ほどあり、長谷川大学教育開発センター長の司会による進行がなされた。龍谷のラーニングコモンズは深草学舎で展開されており、いま出来上がったばかりでこれから運用という段階である。3つのコモンズがあり、「スチューデントコモンズ」がいわゆるラーニングコモンズであり、本学のサイバーライブラリの共同学習スペースと同じような、移動可能な机がたくさんあるが、広さで圧倒された。また、基本的に、どこもすべて外からあるいは中から見るとというのが基本的なポリシーで、見えることをよさと捉えて推進している。「グローバルコモンズ」は留学生がたくさんいる場所で、留学生と話をしたい日本人や、留学を考えている学生のための場所ということであった。「ナレッジコモンズ」は図書館の中にゾーニングして、話ながら学習できる場所を作っている。

最後に1時間弱、案内ツアーがあり、それらの場所の見学をさせてもらった。図書館も閲覧スペースが5層あり、大変広い。さすがに、ラーニングコモンズはまだ運用していないため、経験の蓄積のない話を中心であり、その点においては、本学との圧倒的な違いはないが、1箇所ですべてあるという強みを見せつけられたような感じがする。なにはともあれ、我々も本学の環境をうまく利用して、成功させなければならぬと強く思った。

FD 学外セミナー参加報告書

氏名： 鳩貝 耕一

所属/職名： 情報教育研究センター 教授

参加セミナー名： 第10回龍谷大学 FD フォーラム「ラーニングコモンズを学びの空間として育てていくために」

セミナー参加日時/場所： 2015年3月13日（金）13：30～17：00、龍谷大学 深草学舎 和顔館（わげんかん）202 教室

■セミナー内容・所感・授業や本学への活用について

基調講演 学生とともに創るアカデミックコモンズ（関西学院大学 学長補佐 理工学部情報科学科教授 アカデミックコモンズ活性化委員会コンビーナー 巳波弘佳）

龍谷大学のラーニングコモンズは、先行する関西学院大学のアカデミックコモンズのコンセプトを参考に造られている。コモンズの定義から始まり、2012年の中教審「質的転換答申」、主体的学びの必要性などの説明があった。

アカデミックコモンズを支える組織としては、教員8名、職員8名、丸善によるコンサルタント、学生主体のクレセントチューターとなっている。学生主体のアクティビティの特性に応じ、「気づき・出会い」、「もの・ことづくり」、「グローバル Link」、「たて・よこきずな」、「KG ファン創出」の五つのフィールドに分れている。

クレセントチューターは大学院生であり、学部生に対し、講義や演習に関する質問対応、レポートの書き方、プレゼンテーションのアドバイス、学びや研究に関する相談などを行っている。

報告 「龍谷大学ラーニングコモンズ」の構想（龍谷大学 大学教育開発センター長 経営学部教授 長谷川岳史、国際センター長 経営学部准教授 ホワイト・シヨーン、図書館長 文学部教授 安藤徹、学生ボランティアスタッフ）

龍谷大学のラーニングコモンズは、スチューデントコモンズ、グローバルコモンズ、ナレッジコモンズの3つよりなる。

スチューデントコモンズは、「学生による学びの創造と交流の空間」というコンセプトのもと、自由な交流空間であるコラボレーションエリア、新たな学びを創造するクリエイティブエリア、ワークショップや成果発表などプレゼンテーションの練習などに使用できるアクティビティホール、パネルやポスター展示のできるギャラリーなどに分れている。

学修支援・教育開発センターの思いとしては、使いやすいからといって、^{てい}体の良いオープンスペース、イベントスペースにならないよう、あるいは飲食可だからといって、フードコートにならないよう、学生による「学び」の創造と交流の空間を学生とともに造って

いきたいとの意気込みが語られた。

グローバルコモンズは、グローバルラウンジ、マルチリンガルスタジオ、グループスタディールーム、スピーキングブース、セルフスタディールームにより構成される。留学生や語学教員との交流などを通じ、多文化共生キャンパスを目指している。

ナレッジコモンズは、図書館より派生したコンセプトである。学生が主体的に「調べ、考え、書き、作る」知の空間、学びのリエゾン空間を目指している。ナレッジスクエア、グループワークルーム、AV&PC コーナーよりなる。ナレッジスクエアは 200 席のオープンスペースとなっており、机や椅子、ホワイトボードの移動ができるようになっている。プロジェクタの貸出も行っている。予定するスタッフとしては、コモンズチューター（ライティングなど）、図書館閲覧スタッフ、サポートスタッフ（利用支援）、ライブラリーサポーター（コモンズ運営）がある。

龍谷大学ラーニングコモンズ案内ツアー

講演のあと、参加者を 3 つのグループに分けてのコモンズ案内ツアーがあった。総ガラス張りで端から端まで見通せる建物は、和顔館^{わげん}と呼ばれている。ひょっとすると、施設としては、先日訪れた同志社大学のコモンズ（良心館）の面積、体積を大幅に越すものではないかと思われる。

本学も同様ではあるが、箱ものを作ることが先行し、スタッフの整備がうまく行かない事態になった場合、はたして「学生が来てわいわいガヤガヤと学習してくれる施設になるのかなあ？」という不安が頭をよぎった。

地下 2 階、地上 5 階の和顔館全体が階ごとにゾーニングされており、静かに過ごせる階、議論しながらアクティブに学べる階などの区分けがきっちりとできている。3 つあるコモンズを本学にあてはめてみると、グローバルコモンズは本年後期に竣工する 2 号館 1 階のカフェ、スチューデントコモンズは 5 号館 3 階のラーニングコモンズとなる。一方、本学には、コモンズの近くにある、図書とともに「静かに学習」するエリアのないことに気づく。階を分けることが理想ではあるが、5 号館 3 階をガラスの壁で区切ってコモンズと静かなエリアの両方を設置する必要があるものと考えている。